



8p/2722
Dkt. 2271/60735
#5
8-22-00

Application: Keizou BABA
Serial No. : 09/448,885 Group Art Unit: 2722
Date Filed : November 24, 1999 Examiner:
For : FACSIMILE DEVICE AND A FACSIMILE DEVICE MONITORING
SYSTEM

1185 Avenue of the Americas
New York, N.Y. 10036

Assistant Commissioner for Patents
Washington, D.C. 20231

CLAIM FOR PRIORITY UNDER 35 U.S.C. §119

Applicant hereby submits certified copies of the following priority applications:

<u>Application No.</u>	<u>Filed in Japan</u>
10-333292	November 24, 1998
11-190752	July 5, 1999

Respectfully submitted,

RICHARD F. JAWORSKI
Registration No. 33,515
Attorney for Applicant
Cooper & Dunham LLP
Tel.: (212) 278-0400

I hereby certify that this paper is being
deposited this date with the U.S. Postal
Service as first class mail addressed to:
Assistant Commissioner for Patents,
Washington, D.C. 20231.

Richard F. Jaworski Date
Reg. No. 33,515

2271/60735
Keizou BABA



日本国特許庁
PATENT OFFICE
JAPANESE GOVERNMENT

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されて
る事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed
in this Office.

出願年月日
Date of Application:

1998年11月24日

願番号
Application Number:

平成10年特許願第333292号

願人
Applicant(s):

株式会社リコー

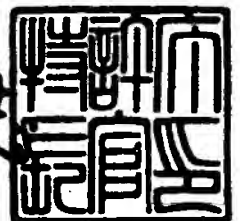
RECEIVED
MAY -5 2000
TECH CENTER 2700

CERTIFIED COPY OF
PRIORITY DOCUMENT

1999年 8月30日

特許庁長官
Commissioner,
Patent Office

伴佐山 建志



出証番号 出証特平11-306019

【書類名】 特許願

【整理番号】 9801163

【提出日】 平成10年11月24日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 H04N 1/00

【発明の名称】 ファクシミリ装置

【請求項の数】 3

【発明者】

 【住所又は居所】 東京都大田区中馬込 1 丁目 3 番 6 号 株式会社リコー内

 【氏名】 馬場 圭三

【特許出願人】

 【識別番号】 000006747

 【氏名又は名称】 株式会社リコー

【代理人】

 【識別番号】 100072604

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 有我 軍一郎

 【電話番号】 03-3370-2470

【手数料の表示】

 【予納台帳番号】 006529

 【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

 【物件名】 明細書 1

 【物件名】 図面 1

 【物件名】 要約書 1

 【包括委任状番号】 9809862

【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 ファクシミリ装置

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

パソコンと接続可能なインタフェースを持つファクシミリと、該ファクシミリのメモリ送信ファイルの状態を監視するパソコン上のモニタリングソフトウェアから構成され、メモリ送信が完了した場合、又は通信エラーになったファイルがあった場合、直ちにパソコンのディスプレイ上に完了又は警告（結果）メッセージを表示することを特徴とする監視システムを備えたファクシミリ装置。

【請求項 2】

パソコンと接続可能なインタフェースを持つファクシミリ装置と、該ファクシミリ装置のメモリ送信ファイルの状態を監視するパソコン上のモニタリングソフトウェアから構成され、通信エラーになったファイルがあった場合、パソコン上から当該ファイルを削除できることを特徴とするファクシミリ装置監視システム。

【請求項 3】

パソコンと接続可能なインタフェースを持つファクシミリ装置と、該ファクシミリ装置のメモリ送信ファイルの状態を監視するパソコン上のモニタリングソフトウェアから構成され、通信エラーになったファイルがあった場合、パソコン上から当該ファイルの宛先及び／又は送信属性を変更できることを特徴とするファクシミリ装置監視システム。

【発明の詳細な説明】

【0 0 0 1】

【発明の属する技術分野】

本発明はファクシミリのメモリ送信とパソコンとが接続されたファクシミリ装置監視システムに関する。

【0 0 0 2】

【従来の技術】

パソコン等の画像作製装置からの指示によって、ファクシミリ送信結果を画像

作製側から確認できるファクシミリシステムは、特開平9-247324号公報及び特開平9-247325号公報により公知である。

前者の文献には、発呼局から受信した画像データを画像メモリに記憶した後、受信順に読み出し、画像出力装置へ送信する。その際、発呼局からの1通信分の画像データを受信する毎に、その受信結果を示す情報を記憶する。そして、1通信分の画像データを画像出力装置へ送信する毎に送信結果を示す情報を記憶させる。画像出力装置へ送信した画像データについて、それぞれ記憶した受信結果を示す情報と送信結果を示す情報とを通信管理レポートとして出力するファクシミリ装置が開示されている。

【0003】

また、後者の文献には、画像作成装置から受信した1通信分の画像データの被呼局への送信を終了すると、その通信結果を示す情報を画像作成装置へ送信する。画像作成装置はファクシミリ装置から受信した通信結果を示す情報を送信記録画面として出力するものである。

これらの文献は、それらの発明以前において、パソコンから画像データをファクシミリ送信した場合に、その通信結果をパソコン側で知ることができず、確認するためにはファクシミリ装置が設置されている場所まで脚を運ぶ必要があった点を、通信管理レポートとして出力できるように改善したものである。

【0004】

しかしながら、これら文献に開示された技術は、パソコン画面上で通信結果を知ることができるに止まり、パソコンの画像データを介してファクシミリ装置を監視し、通信エラーがある場合にパソコン画面上からエラーを修正する機能までは備えていない。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】

ところで、昨今のファクシミリ装置は、プリント機能やスキャナ機能を統合する複合機能化（マルチファンクション化）によりファクシミリがパソコンと接続されることが多くなりつつある。しかしながら、せっかくパソコンが接続されているにも拘わらず、ファクシミリの操作性についてはあまり向上が見られていな

い。従来のファクシミリ装置の中には、パソコンからワンタッチダイヤルなどの登録ができるものや、通信結果を表示するものなど、ファクシミリの操作をパソコン上で実行できるようにしたものがあるが、ファクシミリのメモリ送信に関する不安、例えば、送信できたか否かの結果を速く知りたいとか、送信エラーになってファイルが消去されたことが判らないとか、宛先を間違えた場合にメモリ送信ファイルを簡単に削除できないとか、と云った潜在的な問題を解消するまでに到っていない。

【0006】

また、ファクシミリ装置の低価格化によって、ファクシミリがパーソナルユースに使用されることが多くなっているが、パーソナルユースであって、しかもパソコンに接続されている場合には、メモリ送信の結果レポートやエラーメッセージを紙にプリントすることは無駄であり、不経済でもある。

本発明はこれらの課題を解決するために為されたものである。

【0007】

【課題を解決するための手段】

請求項1の発明は、メモリ送信の結果を速やかにユーザに報せることを目的とし、パソコンと接続可能なインタフェースを持つファクシミリ装置と、該ファクシミリ装置のメモリ送信ファイルの状態を監視するパソコン上のモニタリングソフトウェアから構成され、メモリ送信が完了した場合、又は通信エラーになったファイルがあった場合、直ちにパソコンのディスプレイ上に完了又は警告（結果）メッセージを表示することを特徴とする。

【0008】

請求項2の発明は、上記の目的に加え、エラーが発生したファイルを簡単に消去できるように為したものであって、パソコンと接続可能なインタフェースを持つファクシミリ装置と、該ファクシミリ装置のメモリ送信ファイルの状態を監視するパソコン上のモニタリングソフトウェアから構成され、通信エラーになったファイルをパソコン上で削除できることを特徴とする。

【0009】

請求項3に記載の発明は、請求項1の機能に加え、パソコンと接続可能なイン

タフェースを持つファクシミリ装置と、該ファクシミリ装置のメモリ送信ファイルの状態を監視するパソコン上のモニタリングソフトウェアから構成され、通信エラーになったファイルがあった場合、パソコン上から当該ファイルの宛先及び／又は送信属性を変更できるように、改良したことを特徴とする。

【0010】

【実施の態様】

以下に本発明を具体的に説明する。

本発明の監視システム全体のブロック図を図1に示す。

10はパソコンであり、本発明で使用するファクシミリの状態を監視するモニタリングソフトウェアはこのパソコン上で実行される。1は操作部であり、ファクシミリの操作を実行するためのキーや状態を表示するためのディスプレイやLEDなどからなる。

【0011】

2はインタフェース部分であって、パソコンと端末とが通信するためのものである。RS232のインタフェースやP1284のインタフェースが用いられることが多いが、本発明ではインタフェースの物理的形態は問わない。

3はモデムであり、4のNCU（回線制御部）を介して回線に接続し相手先のファクシミリと交信することが可能となる。

【0012】

5は端末の制御をするためのCPUであり、プログラムを記憶するROM6とデータを記憶するRAM7のそれぞれのメモリが必要となる。

更に、8はプロッタエンジンであり、また9はスキャナであって、ファクシミリを構成する。

本発明では、ファクシミリ側の制御ソフトは、通常パソコンインタフェース部を介してパソコンと上述のやり取りができるようになっており、パソコン側のソフトからの要求に従い、メモリ通信の状態を通知したり（請求項1参照）、メモリ通信のファイルを消去すること（請求項2の場合）や、メモリ通信の宛先を変更したりすること（請求項3の場合）ができる。

【0013】

また、パソコン側のモニタリングソフトは図2のような構成に成っている。図2において、21はメッセージを表示したり、ユーザの入力を受け付けるためのユーザインタフェース部である。22はファクシミリの状態を監視し、必要に応じて、ユーザインタフェース部やインタフェース部に情報を出す。23はファクシミリとの物理的インタフェースを制御する部分である。

【0014】

請求項1では、パソコン上のソフトのファクシミリ状態監視部が常時ファクシミリのメモリ送信ファイルの状態をファクシミリ側の制御ソフトからの情報を受け取ることによって監視し、メモリ送信が正常に終了した時、又はエラーが発生した時、ユーザインタフェース部によってメッセージをパソコンのディスプレイ上に表示させる。

【0015】

例えば、

- ①「宛先11223344への送信（全5頁）が完了しました」
- ②「宛先12345への送信（全4頁）は、相手先から応答がないため失敗しました」

請求項2では、請求項1と同様に、ファクシミリ状態監視部がファクシミリの状態を監視し、メモリ送信に失敗した場合に、以下のようなメッセージを出してユーザに報せるとともにユーザの入力を待つ。

【0016】

例えば、

「宛先12345への送信（全4頁）は、相手先から応答がないため失敗しました。このメモリ送信を取り消しますか？再度実行しますか？」

ユーザの入力が取り消しであれば、ファクシミリ側に当該メモリ送信を取り消す要求を出し、ユーザの入力が再送であれば再送の要求を出す。請求項2では、個々に挙げた例のようなメッセージとともに失敗した理由なども表示すると、ユーザに対して一層親切である。

【0017】

請求項3では、請求項2と同様に、ファクシミリ状態監視部がファクシミリの

状態を監視し、メモリ送信に失敗した場合に、以下のようなメッセージを出してユーザに報せるとともにユーザの入力を待つ。

例えば、

「宛先 1 2 3 4 5 への送信（全 4 頁）は、相手先から応答がないため失敗しました。このメモリ送信を変更しますか？再度実行しますか？」

ユーザが変更と入力した場合には、宛先編集画面を表示し、ユーザに宛先を入力させる。入力された宛先はファクシミリに通知され、そのメモリ送信は新しい宛先に対して送信を実行する。また、ここでは宛先以外にもその送信の属性を変更することも可能である。例えば、G3/G4 の送信モードを持つファクシミリでは、G4 の宛先として作製していたものを G3 に変更するとか、回線を 2 つ持つファクシミリでは送信に使う回線を指定することも可能である。

【0018】

【発明の効果】

上記請求項 1 乃至 3 の構成から、本発明は以下の効果を奏する。

先ず、請求項 1 の発明により、メモリ送信の結果がパソコン上で確認することができるようになったので、結果を確認するためにファクシミリを操作する必要がなくなった。またメモリ送信結果レポートを出力する無駄がなくなった。

【0019】

また、請求項 2 の発明によれば、メモリ送信中にエラーになったことがパソコン上で確認することができ、その原因が相手先のファクシミリ番号を間違えて入力していた場合など、その送信を止めたいときに、即座に中止し、再発呼しないように処理することが可能となっている。

更に、請求項 3 の発明によれば、メモリ送信中にエラーになったことがパソコン上で確認することができ、その原因が相手先のファクシミリ番号を間違えて入力していた場合などには、その番号を変更することができるようになったので、メモリ送信をやり直す労力を省くことができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明の監視システム全体のブロック図である。

【図 2】

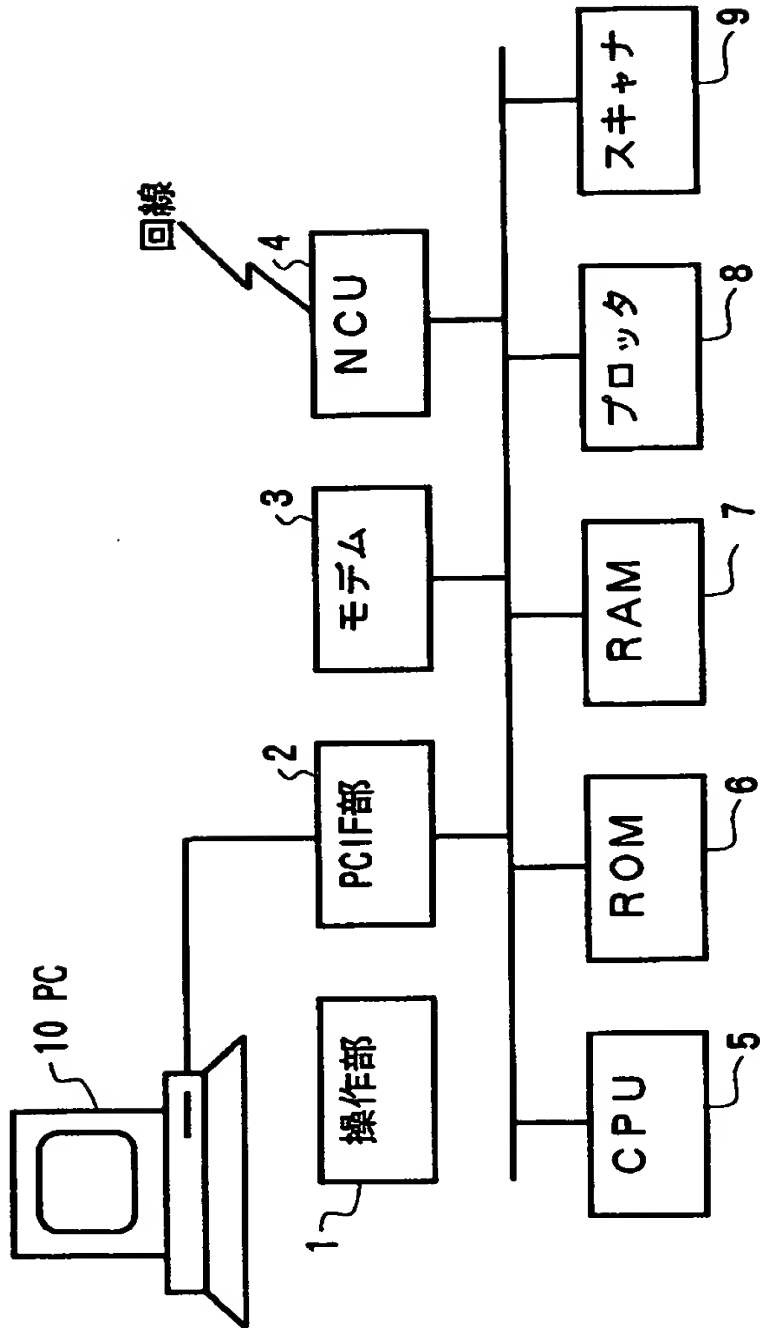
本発明の監視システムにおけるパソコン側のモニタリングソフトを示す概念図である。

【符号の説明】

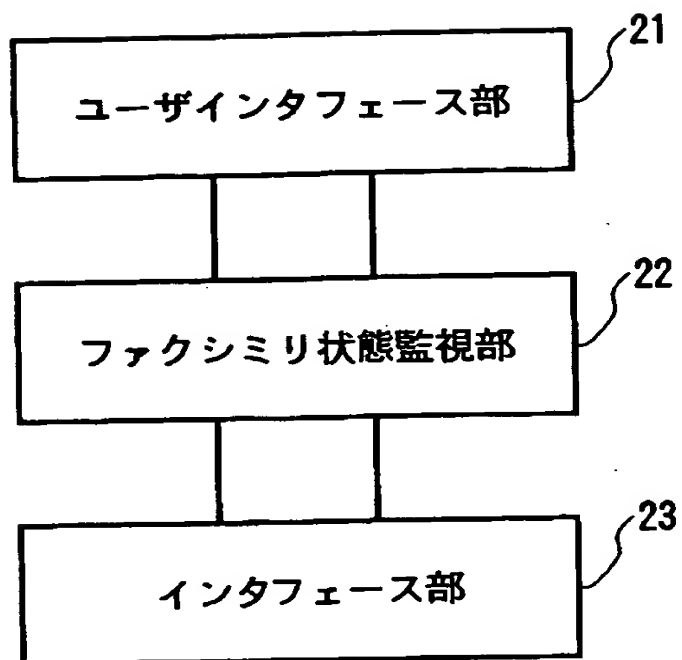
- | | |
|-----|--------------|
| 1 | 操作部 |
| 2 | P C I F 部 |
| 3 | モデム |
| 4 | N C U |
| 5 | C P U |
| 6 | R O M |
| 7 | R A M |
| 8 | プロッタ |
| 9 | スキャナ |
| 1 0 | パソコン |
| 2 1 | ユーザインタフェース部 |
| 2 2 | ファアクシミリ状態監視部 |
| 2 3 | インタフェース部 |

【書類名】 図面

【図 1】



【図 2】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】

メモリー送信の結果を速やかにユーザに報せること、もしも、エラーが発生した場合当該ファイルを簡単に消去できるようにするか、又は当該ファイルの宛先や送信属性を変更できるようにすること。

【解決手段】

ファクシミリ装置のメモリー送信ファイルの状態を監視するパソコン上のモニタリングソフトウェアから構成され、通信エラーになったファイルがあった場合、パソコンのディスプレイ上に警告メッセージを表示すること、パソコン上から当該ファイルを削除できること及び当該ファイルの宛先及び／又は送信属性を変更することを特徴とするファクシミリ装置監視システムである。

【選択図】 図1

【書類名】

職権訂正データ

【訂正書類】

特許願

<認定情報・付加情報>

【特許出願人】

【識別番号】

000006747

【住所又は居所】

東京都大田区中馬込 1 丁目 3 番 6 号

【氏名又は名称】

株式会社リコー

【代理人】

申請人

【識別番号】

100072604

【住所又は居所】

東京都渋谷区代々木 2 丁目 6 番 9 号 第 2 田中ビル

有我特許事務所

【氏名又は名称】

有我 軍一郎

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000006747]

1. 変更年月日 1990年 8月24日
[変更理由] 新規登録
住 所 東京都大田区中馬込1丁目3番6号
氏 名 株式会社リコー